



珍本洋書
第 6 冊

~ 13
3318
6



門 八 13
3318
卷 6

給本至水邊括注前篇六
宋勤助金道及愈難

方中不文心乃



給本至水邊括注前篇六

目錄

六十八
本大學出版部
贈



給本至水邊括注前篇六

給本至水邊括注前篇六

道具
給本至水邊括注前篇六

終末之水常枯源前編六

終末之水常枯源前編六

終末之水常枯源前編六

終末之水常枯源前編六

終末之水常枯源前編六

終末之水常枯源前編六

終末之水常枯源前編六

家の持分をきりつゝと嫁
 明くえとくゝ家出がらあそ
 のどろくに指當りも子あそ
 けりまよ海にわが家の
 まがも甘ろゝ明あも
 七あのみをつあ海あるこ
 あそくのちまがよ持分法その
 ち川物建中あよ廿金
 恋ととあきとろつと
 衣朱落多、櫻の身の上
 中く三あとりと松合
 月も乳香子の乳を
 有る中層もあよの
 ろ志 笑は律 是るき流

うの切本でききまを不判の切きつ
四の少ぶおひもさうしつ之
物ものも運えんぐ一拾五の金が
一白あよぬづまのうもりさ
ちまもまがせしゆらお金かねをあまは
合あとあ事こと一い曲まが居ゐも海うみとのを
出いせりしち川がとのりんんちりを

兼かん原げん有あるが二に百ひゃくの銀ぎんとと金かね
やらもも中ちゆう一い登のぼるが行ゆくも
市いちらら持もちぬる一い百ひゃくの金かねのの持もちぬる
ままをを何なにもも胎たとと降くだりる倉くらをを家いえ
ううのの味あじひひおお後ごよよ中ちゆうららええううを
銀ぎんををままききりりままるるのの女めををいいり
ちち中ちゆうのの金かねもも有あるるがが糸いと法ぽう

城上馬浮子の常本坊地甲の
志のぎに布ぎし
しつりしと子供よ平
ろ十分とせし
りまや城よりなき
衣親諸送
の令
まらるる
つ月と
まらるる
つ月と
まらるる

しつりしと子供よ平
ろ十分とせし
りまや城よりなき
衣親諸送
の令
まらるる
つ月と
まらるる
つ月と
まらるる



一 狂歌のまゝに居る
曲居るも居るも是がうらな
い海が曲居るをあるを果ての
途へ平ゆふうとあふと
其うらな海への湯へへへ
と相切のへへへへへへへへ
有るへへへへへへへへへへ

若くはへへへへへへへへへへ
とらへへへへへへへへへへ
其の自利が金銀なりへへへへへへ
あへへへへへへへへへへへへへ
あへへへへへへへへへへへへへ
あへへへへへへへへへへへへへ
あへへへへへへへへへへへへへ
あへへへへへへへへへへへへへ

あんなくぐり 富が為川くくく
あやで 子 子 まりくと 雀 切くくくく
うに ぶらぶら 子 子 子 子 子 子 子 子
少 神 海 子 子 子 子 子 子 子 子
徳 利 子 子 子 子 子 子 子 子
ゆき 子 子 子 子 子 子 子 子
子 子 子 子 子 子 子 子

あんなくぐり 富が為川くくく
あやで 子 子 まりくと 雀 切くくく
うに ぶらぶら 子 子 子 子 子 子 子 子
少 神 海 子 子 子 子 子 子 子 子
徳 利 子 子 子 子 子 子 子 子
ゆき 子 子 子 子 子 子 子 子
子 子 子 子 子 子 子 子

のしあをとおきほま後
足割いのさし高さし常さし人さしをさしとさし深さしく
糸いと味あじははかか常とこゆゆととめめくくここのの
其その結むすぶぶここののああままののなな被ひめめよよ
いいののををいいつつびびををくく部ぶののををままささるる
袖そでをを捲ま毛げををままくく一ひと家か振ふをを深ふくく
おおままよよううのの或ある日ひ常とこゆゆととめめくく

三さん手ておおままよよのの常とこゆゆととめめくく
おおままよよのの是こゝをを常とこゆゆととめめくく
はは常とこゆゆととめめくく其その常とこゆゆととめめくく目め利り保ほ素そ
ののままよよのの得とくるるをを常とこゆゆととめめくく車くるま匠しやう守まもりり
々々ののああままよよのの子このの常とこゆゆととめめくくおおままよよ
ととああままよよのの常とこゆゆととめめくくおおままよよ
有あるるががううのの由よし縁ゆかりををままららああままよよ

上
去るが存利潤と羨る形年し
が少くあつた人男は
如きは云ふは白徳業と云ふ
形は居る 留者
古代の祥福の事んあめツ業と
んは富の事なるは世なる
登りしやうの路と云ふ

そまは海村と云ふは
ひそまはと云ふは
きほはと云ふは
あはと云ふは
たはと云ふは

物もののち令しやうを節せつ一いつ賣うりたり垂たれり
こつて今いま控ひきかへ賣うりよ賣うりよし平へい
也や七しち控ひきかへ者ものの垂たれらちら有あり
去きりて賣うりと買かひりとの遠とほの也や
其その方かたの形かたちの全ぜん也やりしひ
こつてよ付つせち居ゐりよの法はふも
形かたちも是こゝろに一いつ也やりし

と并ならびに裁きりて二ふた高たか賣うりよ
是こゝろに也やりし也やりし
まゝにいざやと法はふもまゝ
ゆへに中ちゆうに首くびと控ひきかへるも
平へい也やりし也やりし
控ひきかへるも平へい也やりし
是こゝろに也やりし

ありし未だ一工みりトありけ
らきし一第何ちきんきやうん
たし一是ふ足撥んぎしち良
女拂毛たりし拍平しそゆさ
系平し流川のそり局自をまよ
ありしききし目利切者の株
梁の者一客うま持りての

祥福とていひて一客はし一客
たふんとるもきき株葉ちよ
第ひし一客はし是れ中
そゆさし一客はし是れ中
古深川ありあき世の
尾法焼のききんきし
そゆさし一客はし是れ中

